

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部土木工学科内
TEL：03-3259-0662
FAX：03-3293-3319
http://www.nu-dobokukai.com

日大土木会 新会長に 工学部卒 盛武建二氏



新会長に就任した盛武建二氏

平成二十六年年度の通常総会において、本会の新会長に工学部・昭和四十四年卒業（元 会計検査院）の盛武建二氏が就任されました。任期は二年間であり、盛武新会長に就任に当たって会員の皆様方へのメッセージをいただきましたので掲載いたします。

「日大土木会の皆様へ」
盛武建二

会員の皆様には、日大土木会の事業に対して、ご支援とご協力いただき、誠にありがとうございます。平成二十六年六月の役員会及び総会で竹澤三雄先生から交代いたしました。会員の皆様のご期待にこたえるよう尽力して参りますのでよろしくお願いいたします。

日本の経済の現状を見ると、バブル期以降、二十年にわたるデフレに苦しんだ日本経済はデフレノミクスの一つである日本銀行の異次元といわれる金融緩和（市場からの国債買い上げ）による市場での現預金増加が円安、株価の上昇を招き、長く続いたデフレ

からも脱却しつつあり、二〇一三年度の法人税は一兆円の増加がありました。この金融緩和と財政政策、成長戦略に加え、東日本震災の復興、そして、二〇二〇年には東京オリンピックが実施されることとなり、新しい日本が見えてきました。そして、バブル期以降、デフレに苦しんだ日本経済と同様に、この間は土木事業も苦しみましたが、アベノミクスの効果とともに国土基盤整備を支える法律も整備され、公共事業の重要性とともに土木人材教育の充実が求められています。

日大土木会は、山田清臣先生、森元峯夫様、故松田慎一郎様、竹澤三雄先生の歴代会長や諸役員先輩方が築き上げてこられた各種支援事業を各部会の活動を通じて、在学生の教育支援のための講演会、研究会を実施し、日大土木会会報の発行、教育補助費の支援などを行っています。

会員の方々の体験を在学生に伝えることによ

り、いかに土木教育が社会で大切かを知らせることが日大土木の伝統を守ることであり、と考えます。そのためにも、事業拡大が出来る組織体制の構築が期待されると思います。

これから、鎌尾彰司氏（総務部会）、西松好郎氏（広報部会）、神保廣光氏（業務部会）、梶山修氏（企画部会）、鈴木宏氏（研究部会）の副会長五名とともに、理工学部・生産工学部・工学部の土木系各学科との連絡を密にして、各学科の発展を支援したいと存じます。

最後になりましたが、皆様方の本会へのご指導・ご協力をお願い申し上げます。会長就任の挨拶とさせていただきます。

平成二十六年年度 通常総会報告

平成二十六年六月二十八日（土）、理工学部駿河台校舎一号館二階一二二会議室において日大土木会・平成二十六年

度通常総会が開催されました。竹澤三雄会長の挨拶に続き、本会副会長でもある西松好郎氏が議事進行を務められ、以下の通り各議案の審議が行われました。

【第一号議案】

(一) 平成二十五年度収支決算報告及



通常総会の様子

び監査報告（監事：重村智氏）
（次ページに決算表があります）

(二) 事業報告（抜粋）

- ・会員数…一三四四名
- ・年度内入会…〇名
- ・同 退会…二六名
- ・同 死亡…一名
- ・三学部四学科への教育補助金の贈呈を実

平成25年度 収支決算

(1) 収支決算総括表

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

収入	2,400,659円
支出	1,642,493円
次年度繰越収支差額	758,166円

1) 収入の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	増減
会費収入	1,600,000	1,104,790	▲495,210
総会収入	200,000	110,000	▲90,000
雑収入		95	95
前年度繰越金	1,185,774	1,185,774	0
収入合計	2,985,774	2,400,659	

2) 支出の部

金額単位：円

科目	予算額	決算額	備考
1. 事業費	1,300,000	972,325	
会議費		179,340	総会、部会等
印刷製本費		243,725	名簿・会報等
教育補助費		400,000	各学部教育補助
講演料		45,000	特別講演会、地盤の会
ホームページ等		36,540	サーバレンタル等
旅費		67,720	東京-郡山 他
2. 管理費 他	700,000	670,168	
消耗品費		71,774	事務用品・封筒
通信運搬費		474,849	総会案内発送 他
アルバイト		20,000	封入作業・総会補助
印刷製本費		75,285	資料印刷他
慶弔費		0	
会合費		16,260	
その他		12,000	会費重複返却分
3. 予備費	0	0	
4. 次年度繰越額	985,774	758,166	
支出合計	2,985,774	2,400,659	

・ 施(各学科十万円)
 ・ 役員の一部改選に伴い、本会顧問と会長・副会長による意見交換会の実施
 ・ 会報(一四号・一五号)の発行、ホームページの内容更新
 ・ 特別講演会の実施
 ・ 講師・吉原健一様(東亜道路工業社長)「道路業界の現況

について」
 ・ 学生向け就職支援に関する講演会の実施
 ・ 研究発表会(第十六回地盤の会研究会)への支援及び昨年度に新しく設立された「日大土木構造の会」第一回研究発表会に向けた支援を行った。

【第二号議案】

(一) 平成二十六年年度 事業計画(抜粋)
 ・ 名簿・会報(第十六号及び第十七号)の発行
 ・ ホームページによる情報の発信
 ・ 会則・細則の見直し

・ 特別講演会の開催及び在学生向けの就職支援に関する講演会等の実施
 ・ 三学部四学科への教育補助金の贈呈
 ・ 研究発表会の開催支援(第十七回地盤の会研究会・日大土木構造の会第二回研究会)、及び新たな研究会の発足の支援

【第三号議案】

(一) 平成二十六年年度 予算案に関する件
 ・ 平成二十六年年度の予算については、二十五年年度の予算及び決算を参考にし、(次頁に)予算表があらますので、参照をお願いいたします。

【第四号議案】

(一) 役員改選
 以下の通り、新役員が決定いたしました。
 (敬称略)
 ◎ 会長 盛武 建二
 ◎ 副会長(五名) 鎌尾彰司(総務部会長)、西松好郎(広報部会長)、神保廣光(業務部会長)、梶山 修(企画部会長)、鈴木 宏(研究部会長)



総会議長の西松好郎氏



挨拶される竹澤三雄 会長



監査報告される重村智氏



議案説明される鎌尾彰司氏

◎ 理事(三十七名)
 ○ 伊藤義也、内田興太郎、大木宣章、折敷秀雄、落合 実、梶山 修、鎌尾彰司、岸井隆幸、古坂藤吉、後藤 浩、佐々木 勉、佐田達典、佐藤洋一、島崎敏一、神保廣光、菅原宏明、○ 鈴木 宏、関 耕一、長林久夫、中野 徹、西松好郎、野村卓史、廣谷彰彦、深澤榮造、福田 敦、○ 古河幸雄、星埜正明、堀井雅史、前野賀彦、松島 眸、

1. 収入の部

表 平成26年度の予算

金額単位：円

科目	平成26年度予算額	平成25年度決算額	備考
収入			
会費収入	1,600,000	1,104,790	年会費
雑収入	150,000	110,095	総会費・利息他
前年度繰越収支差額	758,166	1,185,774	
収入合計	2,508,166	2,400,659	

金額単位：円

科目	平成26年度予算額	平成25年度決算額	備考
事業費	1,200,000	972,325	総会・委員会・印刷製本 ・講演料・活動支援・旅 費等
管理費	700,000	670,168	消耗品・通信運搬・アル バイト等
予備費	0	0	
次期繰越金	608,166	758,166	
当期支出合計	2,508,166	2,400,659	

◎三浦昌雄 三橋宏次、
峯岸邦夫 盛武建二、
柳沼善明 山崎 淳、
渡辺 英彦

◎監事 (二名)
正木浩太郎、
重村 智

○印：今年度から新しく
就任者

◎新任理事の紹介(四名)
伊藤義也：生産工学部土木
工学科主任教授
鈴木 宏：昭和四十三年・
理工土木卒
古河幸雄：工学部土木工学
科主任教授
三浦昌雄：昭和四十一年
工学部土木卒

また、新会長の盛武建
二氏より会長就任の挨拶
に引き続き、本会の設立
からこれまでの長きにわ
たり多大なご尽力をい
ただいた竹澤三雄先生
(本会・前会長)・根本亮
氏(同・元副会長)及び
村田恒雄氏(同・元副会
長)の三名を新たに日大
土木会・顧

問への就任
要請が提案
され、満場
一致で承認
された。



挨拶される鈴木宏 新副会長



挨拶される盛武建二 新会長

【第五号議案】

第五議案の「その他」
として、昨年の総会時に
提案された会長職の持ち
回り制を、会則ではなく
内規で対応することが提
案され承認された。
(注) 持ち回り制
会長職を

選出していく方法。
第一号(第五号のい
ずれの議案とも満場一致で
事務局の提案の通り承認
された。
なお、平成二十六年
度通常総会の議案書を
日大土木会ホームページ
(<http://www.nu-dobokukai.com>) に P D
Fファイルで掲載してお
りますので、詳細につ
きましては、そちらを併
せて参照願います。(パ



総会の様子

【懇親会報告】

スワードは「dobokukai」
です。すべて小文字で入
力してください。
総会の終了後に、日大
土木構造の会のメンバー
及び地盤の会・構造の会

に参加していた学生も加
わって五十名を超える参
加者による懇親会が、盛
武新会長の発声により開
始された。懇親会は終始
和やかなムードで歓談が
行われておりました。
懇親会の途中で公務で
ご多忙のところ、本年四
月より生産工学部長に就



懇親会の様子



学生も大勢参加してくれました



懇親会の様子



閉会の挨拶・山田清臣元会長



挨拶される落合実生産工学部長



佐々木博明氏（地盤の会）



山中光一氏（地盤の会）



司会の深澤榮造氏



中澤明氏（地盤の会）

第十七回 地盤の会 開催報告

任された落合実先生（土木工学科教授）が、駆けつけていただき、「学部長に就任して」のタイトルで近況報告の講演をしていただきました。

その後、引き続き土木系各学科主任教授より、昨年度から今年度にかけての各学科教職員の活躍状況や学生の入学状況・

好調な就職状況等の話をしていただきました。（前号の会報に記事掲載）懇親会の閉会は、元会長の山田清臣先生（日本大学名誉教授）の締めにより、盛会のうちに無事終了となりました。

以上が総会及び懇親会の報告であります。

文責：鎌尾 彰司

通常総会に先立ち、一号館三階教室において、「第十七回・地盤の会研究会発表会」が開催されました。地盤の会（委員長・佐々木勉氏）は、日大土

木会発足から組織され、今回で十七回目の研究会になります。参加者は、会員及び理工学部土木工学科・社会交通工学科の学生を含めて三十名程で

あり、今回のプログラムは以下のとおり、三名の方々にご講演をいただきました。（講師の急用により東京電力（株）の宮崎寿夫様の講演がキャンセルとなりました。）

第十七回
地盤の会 研究会

プログラム

山中 光一 助手
（理工学部交通システム工学科）
「舗装構造設計のための混合地盤材料の路床弾性係数に関する基礎的研究」

佐々木 博明 氏
（パシフィックコンサルタンツ（株））
「釜石市災害廃棄物処理事業の取組み」

中澤 明 氏
（東京都下水道局・理工土木非常勤講師）
「東京都の建設発生土対策の紹介」

山中光一助手の講演は、混合材料を道路舗装の路床材料に適用した時の、路床弾性係数の推定方法に関する研究結果の報告である。氏は学部生時代から理工学部社会交通工学科（現 交通システム工学科）で、故巻内勝彦先生及び峯岸邦夫先

当日、司会を担当されました。地盤の会幹事・深澤榮造様（写真下左）に開催報告を執筆いただきましたので掲載させていただきます。

「第十七回地盤の会 講演報告」
深澤 榮造



地盤の会・会場の様子



地盤の会・会場からの質疑の様子

生のご指導を受けて、ジ
オテキスタイル関連の研
究を進められており、本
講演はこれまでの研究の
集大成である。

佐々木博明氏の講演
は、パシフィックコンサ
ルトが釜石市（岩手
県）から受注した災害廃
棄物処理事業の「コンス
トラクションマネージメ
ント」に関するもので、
佐々木氏ご本人の現地活

実務の現場で利用される
ことが期待される。

動報告であった。
講演は、約八十万トン
の廃棄物の中間処理、再
生利用、魚網処理等に関
するものである。講演で
最も興味深かったのは、
処理事業全体業務を、自
治体の市に為り代わって
民間のコンサルト会社
社がこれを取り仕切って
進めたことである。今後、
この種の業務形態の発注
が多くなるものと思われ
る。

中澤明氏の講演は、東
京都の建設発生土処理事
業の現状と今後の課題に
関するものであった。東

京都では、現状は建設発
生土情報センターを中心
にしてシステムチックに
処理事業を進めている。
一方、今後、東京都は
超高層ビル建設ラッシュ
や東京オリンピックに向
けた都心再開発の建設
ラッシュが予想され、こ
れらによる発生土増加
と、自然由来の汚染土処
理が今後の課題であると
の報告であった。

(以上)



特別講演会の様子

学生向け 特別講演会 開催報告

去る平成二十六年七月
二十三日、理工学部土木
工学科三、四年生を対象
に特別講演会を開催いた
しました。
本会副会長・事業部会
長の神保廣光氏から講演
会当日の様子を報告して
いただきましたので、こ

こに紹介させていただきます。

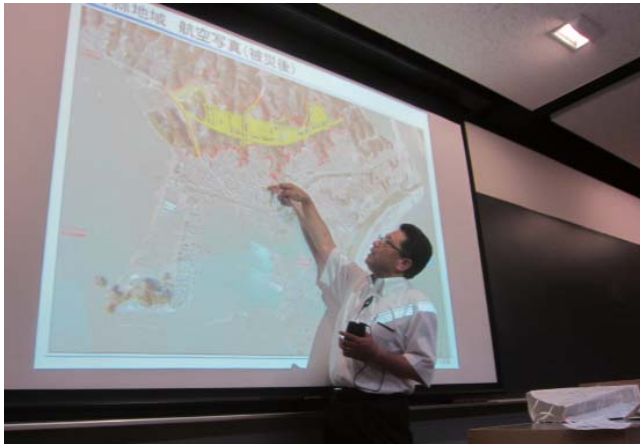
東日本大震災の復興
に携わる実務者から
の特別講演

講師：独立行政法人
都市再生機構
(UR)
宮城・福島震災
復興 支援本部
東松島復興支援
事務所 所長
清水良祐氏



講演される清水良祐氏

平成二十六年七月
二十三日、理工学部土木
工学科の三、四年生を対
象に災害対策の実際や災
害発生メカニズムを学
ぶ「災害管理」の最終回
講義で、URが宮城県東
松島市で取り組んでいる
東日本大震災復興事業に
ついて清水所長から「災
害復興に携わる実務者か
らの特別講演」をして頂
きました。
理工学部駿河台校舎一
号館三階、講演時間は
九十分、約百三十名の学



講演される清水良祐氏

生が受講しました。

講演に先立ち、平成二十三年三月十一日発生した東日本大震災で、東松島市内で住宅用地十二

戸うち八戸が浸水(約六十五%)し、約千人の尊い生命を奪った激しい津波の動画には息を飲みました。

講演の主な項目は、

- ① 東松島市の震災被害状況
- ② 東松島市の復興まちづくり計画
- ③ URの取り組み

区(東矢本駅北野蒜北部丘陵)、

④復興事業の課題、

等を体系的に話して頂きました。

URが被災市街地復興土地区画整理事業を東松島市から受託し、災害公営住宅と移転先の都市基盤の一体的整備を行って

いる東矢本駅北地区及び野蒜北部丘陵地区の概要は以下の通りです。

東矢本駅北地区は、JR仙石線東矢本駅の北側で(約二三ヘクタール)

既成市街地と隣接した農地を搬入土により、ほぼ造成盛土が完了した状況にあります。甚大な被害があつた大曲浜地区を主とする集団移転先とし

て、復興のシンボルとなる街並みの形成と地域コミュニティの継承に力点を置き、平成二十七年

末の基盤整備の完成を目指しています。

野蒜北部丘陵地区は、沿岸の災害危険区域から、より安全な丘陵地への集団移転先及びJR仙石線の早期の基盤整備

工事着手を目指して市による先行全面買収(約九十二ヘクタール)を行

っています。当地区の特徴は、膨大な切土量(約五百五十万m³)の内、地区外搬出(約三百十

万m³/日)で行うため、大型重機施工、ベルトコンベヤでの大量搬出を採

用しています。(なを、搬出状況は臨場感のある動画でも紹介して頂き

ました。)またURは、早期の復興事業を推進する

ため、民間のノウハウを

活用し、段階的な工事を大括り化し、設計・施工・マネジメントをまとめて

発注するシステム(CM方式)を導入しています。

講演のまとめで、復興事業の実務に携わる立場から見た課題として清水

所長は、

- ① 事業化決定の促進、
- ② 早期移転先の確保と
- ③ URのスピード化、
- ④ 行政(市)のマンパワー不足、
- ⑤ 復興事業の調整等を

掲げられました。

講演の閉めで、URは今後の復興事業の参考とするため、学生諸君から

災害復興に対する意見、感想等を提出して頂き、後日清水所長から、意見、感想の集約を送付して頂

きました。URから意見、感想の依頼項目は、以下の3点です。

- ① 東松島市震災復興事業について
- ② ボランティアと復興事業の関わりについて
- ③ あなたができる今

後の復興支援

受講生の主な意見等は、①の項目・半数以上が復興事業の取り組みの認識を新たにし、URに

エールを送る一方、制度とか復興のスピード感、働く場の確保等の課題に

ついては共感の意見。また大土工にも関わらず、廃棄物等を十四種に分別する等きめ細かな対応に

は感動を受けたとの意見も散見された。

②の項目・半数以上が復興支援ではボランティアの重要性を認識するとともに、一割程度が幅広くボランティアに参加できる工夫が必要ではない

かとの意見。

③の項目・半数弱が、ボランティアや支援金や現地商品を購入や現地に

行って肌で感じたい。三割程度が技術者として復興支援に生かしたい。二割程度が震災の記憶を風化させないことが重要

伝承して行きたい。

以上、受講生が復興支援に対する考えが大変前向きなのに感銘を受けました。

講演依頼当初、震災復興現地見学会としてはどの話もありましたが、現

地に向ける学生には限りがあるため、遠路より

出向いての講演依頼となりましたが、多くの学生

諸君が現地での災害復興事業状況を聞く事ができ

たことは大変有意義であつたと思います。

おわりに、東松島復興支援事務所所長、清水氏には、復興事業の多忙な折りにもかかわらず、講

演準備や大学への出向いの特別講演大変ありがとうございました。

業務部長 神保廣光

事務局より

第十七号の会報は、平成二十六年通常総会・懇親会・地盤の会研究発表会の報告・学生向け特別講演会の話題を掲載いたしました。

本会報及び本会に対するご意見並びにご要望等がありましたら、お気軽

に事務局までご連絡お願いします。

また、会員名簿も同封させていただきました。会員名簿作成にあたり、転居等による住居不明の方が大勢おられます。名簿をご覧いただき住所不明者の方の連絡先がわかりになります。また、ご自身の住所・勤務先等の情報が修正されていない方がおられましたら事務局まで一報いただければ幸に存じます。

連絡方法については、手紙・FAX・電子メールのいずれでも結構です。よろしくお願いいたします。



(S・K)